

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

ICER Newsletter

寄稿

看護実践力向上に資するeラーニング教材 看護実践カブロッサム開花プロジェクト

1160 余名の職員を抱える九州大学病院看護部では、5 年前より看護師の看護実践力向上に資する教育プログラムを開発し、看護師のキャリア構築を支援する「看護実践カブロッサム開花プロジェクト」(文部科学省大学改革推進事業『看護師の人材養成システムの確立』)に取り組んでいます。

教材開発センターとコラボした e ラーニング教材開発もその一環であり、総合大学である利点を最大限に活用した取り組みです。

看護部では、情報基盤研究開発センターと連携して、看護実践に関する講義や演習を撮影した視聴型教材を作成し、インタラクティブ機能による視聴管理が可能な、九州大学 Web 学習システムを活用した e ラーニング学習環境を整え、院内限定で公開しました。近年、看護ケアも多様に変化する臨床現場では、時間や場所に制限のない e ラーニング教材は学習ニーズにマッチし、テスト形式やインタラクティブ型など、教材を多様化させ、利用が進んでいます。この取り組みが 2011 年第 8 回日本 e-Learning 大賞奨励賞を受賞しました。

今年度からは、教材開発センターと協働で、HTML5 を使用した教材開発、モバイル端末から利用できる Handbook での教材提供や、電子書籍作成に着手しています。開発した教材は、院内外の臨床看護師教育教材として公開を拡げ、社会還元を進めます。

【中畑 高子(九州大学病院看護部長) 野上千穂(九州大学病院看護部 看護キャリアセンター)】

看護実践カブロッサム開花プロジェクト

病院看護部と医学部保健学科が連携した育成プログラムや教育体制を開発・整備することで、看護学生の看護実施能力の質を保証し、看護職員の看護実践能力の質の持続的な向上を図ることを目的として平成 21 年 10 月よりプロジェクト開始。
学習環境として e ラーニングを積極的に取り入れ、当センターと共同で教材開発に取り組む。



予習復習から反転授業まで ～ひろがる、つながる、動画コンテンツ活用シーン～

教材開発センターでは、日々、講義や講演等を撮影し、誰でも視聴できるよう一般公開 (YouTube、iTunes U、QOCW) しています。そんな活動の中、実は一般公開されない講義を撮影することもあります。2013 年度前期には全学教育で開講された「課題協学『繋がり』」や「基幹教育セミナー『大学で学ぶ意味を語って聴いて深めよう』」(2 クラス分) を学期を通して撮影し、記録しました。編集した動画は講義担当のワーキンググループ内で共有され、講義の進行や内容を参加していないメンバーとの共有に使われたり、今後の改善に利用されたりしています。また、事前に講義内容を撮影し、その講義動画を学生に予習として提供、対面講義では講義動画の内容をもとに、ディスカッションベースにすることも可能です。

このように、教材開発センターでは動画コンテンツを一般公開するだけでなく、学内で共有されることを目的に収録・編集し、教育の質を高めることにも貢献しています。

【田代 岳人(テクニカルスタッフ)】

「大学で学ぶ意味を語って聴いて深めよう」
▼(少人数セミナー)



▲「繋がり」(総合科目)



Web学習システム更新 ～新機能で課題ツールをもっと便利に～

9月に実施されたWeb学習システムのアップデートにより、従来のツールにいくつかの新たな機能が追加されました。ここでは、課題ツールの新機能を二つ紹介します。

一つ目は、課題のインライン表示と採点機能です。これまで、ファイルとして添付されていた課題を採点する場合、毎回手元のPCにダウンロードして表示する必要があり、採点に手間がかかっていました。インライン表示機能では、MicrosoftのWordやPDFで提出されたファイルをダウンロードすることなく画面に表示できるようになりました。また、画面に表示するだけではなく、コメント、ハイライト、手書きの入力が可能となっており、受講者に適切なフィードバックを返すことができるようになりました。

二つ目は、課題の一括ダウンロード機能です。課題のインライン表示は便利な機能ですが、Web学習システムにオンラインでログインしておく必要があります。課題の一括ダウンロードを行うと、受講者から提出されたフォームとファイルに受講者ID(学生番号)が先頭に付与されたファイルとしてZIP形式でアーカイブされ、受講者全員分のデータを手元のPCへダウンロードすることができます。課題の一括ダウンロードを利用することで、出張先や移動中など、ネットワークに接続できない環境でも課題を採点することが可能になります。

【井上 仁准教授(教材開発センター協力教員)】



課題のインライン表示と採点

課題の一括ダウンロード

ファイル名	提出日時	ファイルサイズ	ファイル形式
148130016-レポート.docx	今日 11:02	133 KB	Microsoft Word 文書
148130016-01.docx	今日 11:02	200 B	Microsoft Word 文書
148130016-02.docx	今日 11:02	85 KB	Microsoft Word 文書
148130016-03.docx	今日 11:02	200 B	Microsoft Word 文書

知っていますか？ 電子教材の著作権

Q 学術雑誌に掲載された自分の原著論文を利用する場合も、許諾を申請する必要があるか？

A 原著者と著作権者(出版社や学協会等)との契約内容によります。

著作物は著作権法によって保護されています。従って他人の著作物を教材の一部として利用する場合は、原則として著作権者の許諾を得ることが必要です。また、自分の著作物であっても、譲渡可能な著作権(財産権)が他人に譲渡されている場合は、譲渡先の著作権者(学協会や出版社等)の許諾を必要とします。

一方、学問は日々更新される先人の研究業績の積み重ねによって成り立っています。特に自然科学系の大学教育において、教員や学生が最新の専門書や学術雑誌に掲載されている他人の著作物を教材の中で二次的に利用しようとするのは当然と言えます。しかし、教材作成について、著作権者から以下のような注意が喚起されていることを知っておく必要があります。

JJMPA 日本医書出版協会 大学等におけるテキスト作成時のご注意
<http://www.medbooks.or.jp/textbook/>

【吉田 素文教授(教材開発センター協力教員)】

撮影編集よもやま話

講義や講演の撮影は今までの自分と何の接点もなかった分野ばかりで、難しい専門的な講義になると正直意識が遠のくこともあります。ですが未知の分野がこんなに面白いのか、と感じることも少なくありません。撮影に集中していると話の内容が耳に入らない、逆に話に聴き入り過ぎると撮影が疎かになるため編集をしながら講義を聴くこともあります。部屋で編集をする時はヘッドホンをつけ音が漏れないよう、周囲の音から隔離するようにして講義の世界に入っています。時にユーモアを交えた講義の世界に入り込むと、静かな部屋でククッ、と笑いながら編集をしている自分に気が付き不気味なことがあります。このようにして撮影、編集を終えた動画が公開されていくのです。



【梶谷 理恵(テクニカルスタッフ)】

各種講習会を開催しています

教材開発センターでは、教職員や在学生を対象に、各種講習会を開催しています。

現在開催中の講習会は、「Web学習システムならびに Handbook 講習会」、「電子教材著作権講習会」、「電子教材開発者および対話型 3D コンテンツ開発者向け講習会」です。いずれも電子教材を作成・利用する際の疑問や不明点にお答えできるよう、有用な内容となっております。ぜひご参加ください!

開催日時などの詳細は、ICER ウェブサイトでお知らせします。下記 URL をご参照ください。

講習会情報は [こちら](http://icer.kyushu-u.ac.jp/seminar_cal)